



明化の教育

11月号 (第505号)
令和4年11月1日
文京区立明化小学校
校長 熊倉 勝

運動に親しむ心を育てる

校長 熊倉 勝



今年度の明化スポーツフェスティバルでは、会場を外に広げ、ボルダリングにも挑戦しました。

「楽しかった。」「来年もまたやりたい。」

明化スポーツフェスティバルを終えた高学年の子供たちの言葉です。疲れた表情の中にも全力で取り組んだ充実感や達成感を感じ取ったのは、私だけでしょうか。

さて、10月29日に明化スポーツフェスティバルとパレードを無事行うことができました。パレードでは、保護者の皆様に大きな拍手をいただき、ありがとうございました。今年度も林町小学校の校庭をお借りしました。ご協力いただいた林町小学校の関係の皆様、近隣の皆様には感謝の一言に尽きます。器楽部の保護者の皆様には、練習時より楽器の運搬のお手伝いや当日の会場準備、受付等大変お世話になりました。子供たちの姿や表情から、支えてくださった方々への感謝の気持ちも表すことができましたと思います。

そして、今年度は1年から4年までの児童がパレードを見ることができたことが大きな収穫です。

「5、6年生がすてきで、動きがきれいだった。」「迫力があった。」「5、6年生のパレードを見て、大きくなったらやるんだなと思った。」これは、パレードを見た1年生の感想です。このような内容から、1年生も高学年への憧れの気持ちをもつことができたのではないかと感じます。今年度、大切にしている「つなぐ」ことがここで一つ実現できました。コロナ禍で様々な制限がある中で、高学年としての頼もしい姿を見せた5、6年生に大きな拍手を送ります。

また、文京スポーツセンターで行った明化スポーツフェスティバルは今年度3回目を迎え、専門家をスタッフとして11種類のスポーツをブースに分け、子供たちが自由にブースを回り、自分の好きなスポーツ体験を行いました。今年度は、会場を外に広げました。それにより、ボルダリングや特大シャボン玉作りなど新たな種目を増やすことができました。1時間半ほどの活動でしたが、子供たちが思い切り体を動かし、運動に親しむ姿を数多く見ることができました。

「生涯スポーツ」が叫ばれて久しいですが、体育科の目標には、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する」とあります。その実現には、運動に親しむ主体的な態度を身に付けることが重要です。そのきっかけ作りの一つが、普段なかなか経験できないスポーツも行うことができるこの明化スポーツフェスティバルだと考えています。明化スポーツフェスティバルは、当日だけの活動ではありません。大切にしたいのは、事前の体験学習です。事前の体験学習で様々なスポーツを知り、当日に思い切りそのスポーツを楽しむ。このような一連の活動を通して、より運動に親しみ、体を動かすことの楽しさや喜びを十分味わうことができると考えています。子供たちの笑顔を見る限り、運動に親しむ意味でも成果があったと思います。

校庭がなく体育の学習に制限がありますが、子供たちが運動に親しむことができるように今後も内容や方法を工夫して教育活動を行って参ります。